河合塾　北九州現役館　2025年4月9日・10日

インタビュー記事（朝日新聞掲載）

脱中学の勉強法 三つの心得

新高校生へ 予備校からの助言 上

県内の高校で入学シーズンを迎え、新生活を始めた新高1生も多いでしょう。高校での勉強方法や進路の見つけ方について、大手予備校「河合塾」の北九州現役館（北九州市小倉北区）の担当者に話を聞きました。

同館にはこの時期、「中学校までは詰め込み方式で勉強していたけれど、高校ではどうすればいいでしょうか」といった相談が多く寄せられるといいます。

「大学受験を視野に入れた場合、中学校と高校の勉強では大きく三つの点が違います」と進学アドバイザーの池松亮さんは言います。

一つ目は知識量。英単語だけでも、高校受験では2千語前後が必要ですが、大学入試では5千～6千語が求められます。

二つ目は知識の質です。「数学などの公式も複雑で難解になります。中学校では覚えているだけで得点できましたが、高校では理解をして自分の中に落とし込まないと、点につながりにくいです」

三つ目は学校の環境です。例えば同館のある福岡県では、「朝課外」という早朝学習をする県立高校があります。生活のペースに慣れないうちに、授業がどんどん進んでしまうケースも。また、部活などの課外活動が活発な学校もあり、勉強だけに長時間を費やすことが難しくなります。

「高校受験は学校や塾で出された課題をがむしゃらにやっていれば結果が出ますが、大学受験は自分で計画を立てて進める必要があります」

池松さんは「中学と高校では『全く違った分野をやるんだ』と頭を切り替えて、一から学び直す意識で臨むといいでしょう」とアドバイスします。

■中学校と高校の受験勉強の違い

- 知識の量　英単語だけでも2～3倍の語数が必要
- 知識の質　数学などの公式が複雑化。覚えるだけでは得点しにくい
- 学校の環境　早朝学習や部活などで生活のペースが変化

（「河合塾」北九州現役館の進学アドバイザー・池松亮さんによる）

福岡県立修猷館高校の合格発表
＝3月17日、福岡市早良区西新6丁目

大学や仕事 次の目標探そう

高校生は、自分の将来を意識しながら進路を考える時期でもあります。

「憧れの高校に受かっても、次の目標が見つからないと勉強への意欲も下がってしまいがちです」と校舎長の一原健治さんは指摘します。河合塾では生徒に目標を持ってもらうことを重視しているといいます。

入学時に就きたい職業や進学先が具体的に決まっている生徒は少なく、同館でも話し合いながら提案をしています。「興味のある分野を自分で深掘りして、大学の情報を調べたりオープンキャンパスなどに参加したりして、納得して選ぶのが大事です。ほかの人からの押し付けだと、モチベーションも変わってしまいます」と池松さんは言います。

（上田真美）

◇

新たに高校生になる皆さんへのアドバイスを2回に分けて掲載します。次回は大学入試の傾向や、1年生のうちに取り組みたいことを紹介します。

読書で育む力 1年生の間に

新高校生へ 予備校からの助言 下

大学受験の勉強はいつ始めるべきか――。進学を希望している新高校1年生にとっては、気になる話題の一つでしょう。最近の大学入試の傾向や1年生のうちに取り組みたいことを、大手予備校「河合塾」の北九州現役館の担当者に聞きました。

河合塾の分析によると、コロナ禍では九州を中心に受験生の地元志向が強まったものの、その後は近畿圏や首都圏の大学を選ぶ割合が上昇傾向にあるといいます。

大学の入試は、2～3月に学力試験をする一般選抜と、年内に合否が決まる学校推薦選抜や総合型選抜（旧AO入試）、大きく分けてこの3種類があります。国公立大は入学者の2割、私立大は6割が学校推薦や総合型だといいます。

ただし、「推薦や総合型は決して楽な道ではありません」と進学アドバイザーの稲員由紀子さんは指摘します。学校の成績などの要件に加え、小論文や面接の対策も必要になります。面接では就活さながら、大学・学部で何を学びたいか、実現したいかを問われ、入念な自己分析が求められるといいます。

大学入学共通テストを受ける受験生たち
＝1月18日、兵庫県西宮市、有元愛美子撮影

「不合格となると精神的なダメージを引きずることも。そういう可能性も考えながら、一般選抜と両立する計画を立てることになります」

大学受験では、学校や予備校に「任せている」と言う保護者も多いそうです。けれども、校舎長の一原健治さんは「大学入試は生徒だけの試験ではありません。保護者も受験のことを知って、家で生徒と話し合って欲しいですね」と話します。

受験を見据え、一原さんは「入学前や1年生の間に読書をしてほしい」と助言します。「どの科目でも読解力や表現力が求められます。3年生になってからでは間に合わない。今のうちから本を読み、筆者が何を言いたいかを考える習慣をつけると良いでしょう」。興味のある分野の新書は、面接や小論文対策にもつながるといいます。

部活や課外活動にも挑戦を

最後に、高校生活を充実させるためのアドバイスを聞きました。進学アドバイザーの池松亮さんは「勉強も大事ですが、部活、課外活動なども含めて、高校でしかできないことに恐れずチャレンジしてください」。稲員さんは「後悔のないよう、与えられた環境で自分の最大限の選択肢を選べるよう過ごしてほしいです」。

一原さんは「自分で『もう無理、無駄』と考えて志望大学を下げてしまうのではなく、限界を決めずに受験をしてほしい」とエールを送ります。

（上田真美）